

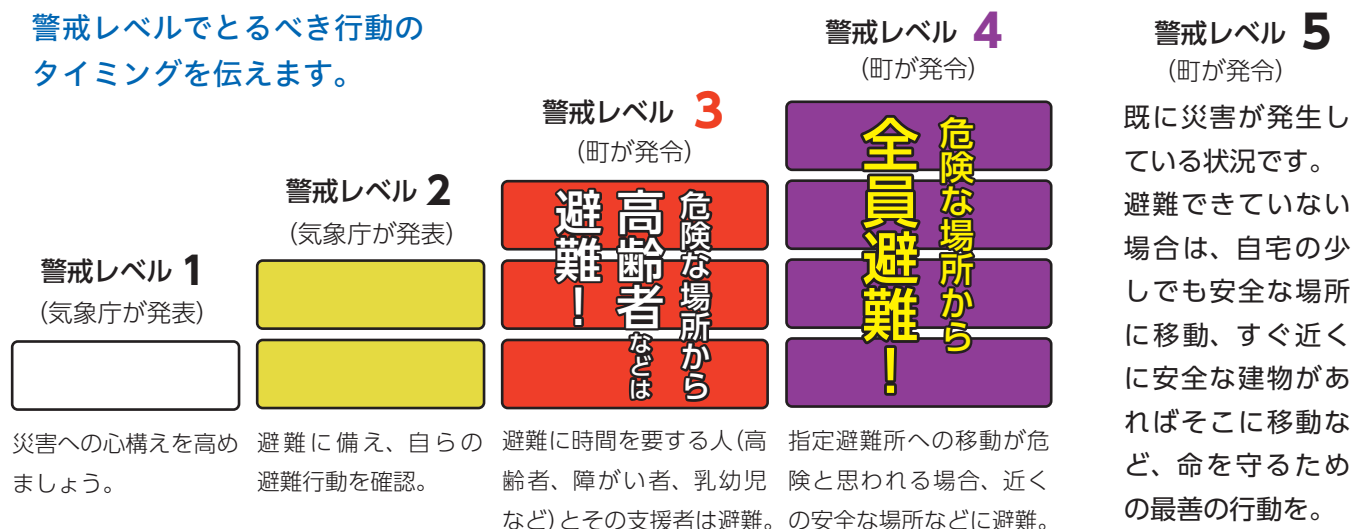
感染症対策を取り入れた今季の災害対策

警戒レベルの呼び掛け方が見直されました

水害・土砂災害発生の危険性と、とるべき避難行動を直感的に理解できるように使用されている警戒レベルが、「危険な場所から」の避難を呼び掛けるように見直されました。「危険な場所から」としたのは、発令対象区域の

住民全員に避難することを求めているわけではなく、危険な場所にいる人に避難を求めているためです。避難とは、「難」を避けることであり、安全な場所にいる人まで避難所に行く必要はありません。

警戒レベルでとるべき行動の
タイミングを伝えます。



① 居住区訓練

「咳をしている人がいるので対応してほしい」など、避難者の要望に対応する訓練。要望を受け、段ボールパーティションを消毒(写真中央)

② PPE(個人防護具)着脱訓練

熊本赤十字病院の小林賢吾(こばやしけんご)災害看護専門看護師の指導で、職員4人がPPEであるマスク、フェイスシールド、ガウンを着脱。

③ 生活空間訓練

「食事の受け渡し方法」「車いす使用者へのトイレ誘導」「授乳室への誘導」などの訓練。

全国に先駆けた「感染症に対応した避難所運営訓練」

町は5月24日、新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営訓練を町総合体育館で行いました。訓練には、町職員50人が参加。全国に先駆けた訓練ということもあり、県内外の危機管理担当者など、多くの見学者が訪れました。訓練に先立ち、西村町長が、「この訓練は、国内での感染症の発生を受け、新たに作成したマニュアルに沿ったもの。有事の際に、町民に安心して避難してもらうため、訓練を通して問題点を洗い出してほしい」と述べました。訓練は、同日午前10時、県内全域に大雨警報が発表され、町は「警戒レベル4 全員避難」を発令した

という想定で行われました。職員が、避難者役と避難所運営役に分かれ、避難者の受け付けや体調不良者が発生した場合の対応など、6つの訓練を実施。1つの訓練が終わるたびに参加者を集め、内容に問題がなかったかなどを検証しました。また、全ての訓練終了後、評価者として招いた3人の有識者と今石佳太(いしけた)危機管理監が、訓練を通しての課題と成果について、講評を述べました。最後に、西村町長が、「訓練内容の検証を行い、必要な部分は修正していく」と述べ、全ての日程が終了しました。